

事業報告書（令和6年度）

事業名 はれのまほけんしつ

団体名 はれのまほけんしつ

担当者名 濱田由紀

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

R6. 4/12 ひらた旭川荘

R6. 5/29 ひらた旭川荘

R6. 6. 27 大元公民館 参加人数 11 組 22 名 スタッフ、ファシリテーター、講師計 3 名
おっぱい生活のあれこれ（講座＋茶話会）

R6. 7. 4 スペースむすひ 参加人数 7 組 15 名 スタッフ、ファシリテーター計 2 名
座談会（茶話会）兼相談会

R6. 8. 2 京山公民館 参加人数 7 組 15 名 スタッフ、ファシリテーター計 3 名
座談会（茶話会）兼相談会

R6. 9. 6 京山公民館 参加人数 14 組 27 名 スタッフ、ファシリテーター計 3 名
座談会（茶話会）兼相談会

R6. 10. 4 たんぽぽのおうち 参加人数 7 組 14 名 スタッフ、ファシリテーター計 4 名
座談会（茶話会）兼相談会

R6. 11. 1 操山公民館 参加人数 10 組 20 名 スタッフ、ファシリテーター、講師計 4 名
子連れ防災について考える（講座＋茶話会）

R6. 12. 6 津高公民館 参加人数 5 組 10 名 スタッフ、ファシリテーター計 3 名
座談会（茶話会）兼相談会

R7. 1. 10 福田公民館 参加人数 7 組 15 名 スタッフ、ファシリテーター計 2 名
座談会（茶話会）兼相談会

R7. 2. 3 東公民館 参加人数 17 組 35 名 スタッフ、ファシリテーター、講師計 5 名
おむつ・トイレについて（講座＋茶話会）

※R7. 3. 7 三月の会を予定

・6月9月はさいとうファームの廃棄処分予定の野菜を販売。

・11月12月1月2月は会場近くのお店で昼食をテイクアウト（希望者のみ、自費）

2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか 参加者の方から 「育児で悩んでいるのは自分だけでない、と心が軽くなった」 「いつもひとりなのであたたかい雰囲気と同じような月齢の母と出会え話せてよかった」 「こどもに対して怒ってばかりでそんな毎日が嫌だったが話を聴いてもらえてアドバイスをもらい明日からまた頑張れそう」 「自分は支えられる側かと思ったが、自分の経験談を話したことでとても参考になったといわれ、誰かの役に立つということが経験できた、とてもうれしかった」 「ネットの情報は何が正しいのか分からないので対面で困りごとが相談できありがたい」等の感想をいただいた。 実際に母親同士が出会い話すなかで日々の育児の不安や心配がひとりではないこと、気持ちの共有や育児不安が軽減でき、社会からの疎外感や孤立を防げたのではないかと。 →育児への前向きな姿勢、頑張ろうと思えるきっかけ、積極的に地域や社会、他の人とつながろうとする姿勢、自己効用感を得られたのではないかと。 専門職のアドバイス、場づくりによる安心感→育児スキルの向上、育児に対する自信へつながったのではないかと。 会場が移動式であったことで、居住区の枠を超え「思い切って出てきました！」という参加者、公共交通機関の利用などがあり、外出のきっかけとなったのではないかと。 地元なのに公民館に来たことがなかったという母親が多かった。公民館や地域の居場所、他子育て支援機関などの紹介を行うことで興味を持ってもらえた。(その後の公民館行事に参加された方もおられた)
② どのように学び合いを取り入れたか 座談会でのグループ分け時に居住区が近い、子どもが同年齢等、共通項をもつ母親同士が話しやすいように調整、座談会では母親同士の会話から学びを得、共感ができるような会の進行をしてもらうようファシリテーター(講師)をお願いをし、スタッフも心掛けた。 座談会のなかからでたニーズを汲み、専門職によるミニ講座を行い学びの月を設けた。 座談会の参加者であり真備の被災者である母親に、子連れに特化した防災についての講師を依頼し、学びの月を設けた。 毎回の会終了後の振り返りによる、ファシリテーター・スタッフの学びの時間を設けた。
③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか 座談会の中ででた学びあいやニーズから、より必要とされる専門的な知識をミニ講話として開催し学びを深め、日常生活でいかせるよう試みた。 毎月の座談会で親子と継続的に出会えることから、前回参加の時の困りごとや話題について「その後実際どうなったかな？」というような声掛けをし、フォローを行っていくような関わりを意識した。 母親同士が座談会後も関わりをもてるよう、昼食を食べながらも会話ができるように試みた。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

- ・参加者同士が実際に顔をあわせリアルな体験談を共有することで育児不安が軽減解消され、孤立感を防ぎ、外出のきっかけとなったのではないかと。余裕をもって我が子に接することができ、産後うつや育児ノイローゼの予防。
- ・自分の経験が誰かの役に立つという「自己効用感」が得られ（育児の参考になりました、と言われる、参加者だった母親がミニ講話の講師となり皆の前で話す等）が共助の関係性となり、社会参加の一助となったのではないかと。
- ・情報が氾濫するネット情報に困る母親に対して、確かな情報やアドバイスを専門職からリアルタイムで提供できた。
- ・自分の居住地の近くの公民館や会場に足を運ぶ、お店のものを食べる機会となり、地域とつながる・誰かとつながる、顔の見える関係づくりのきっかけとなったようだ。
- ・廃棄野菜を購入することで、農家のことを知る、環境問題についての意識づけとなったようだ。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

- ・座談会の取り組みを通して、「孤」育て予防を引き続き行う。
- ・移動式の会を継続し、他地域でも行う。より地域とつながり、様々な居住区の参加者が得られることで地域格差をなくしていきたい。
- ・専門職が関わることで、既存の子育て広場とは異なる安心感、育児スキルや確かな情報源となり、それを母親へ受け渡すことでより安心して子育てできる地域にしていきたい、「育児っていいな」と思えるよう少子化対策へつなげていく。
- ・廃棄野菜だけでなく、他の廃棄食材やフードパントリーとのかかわりを持っていきたい。
- ・地域の公民館、他の子育て支援機関、産科や助産院、企業など々と連携した活動を行い、より発展的に活動したい。

